

令和 6 年度第 2 回野洲市介護保険運営協議会
議事録

開 催 日 時	令和 6 年 9 月 13 日 (金) 午後 3 時～午後 4 時半
開 催 場 所	野洲市役所 2 階 第 5 会議室
出 席 者 (委 員)	立入委員、北山委員、岩本委員、東森委員、政本委員、畠野委員、東郷委員、芳野委員、森井委員
欠 席 者	田中委員、小林委員、本田委員
事 務 局	井狩健康福祉部政策監、橋本介護保険課長、 今在家高齢福祉課長兼地域包括支援センター所長、村山高齢福祉課長補佐、 富澤地域包括支援センター副所長、山本介護保険課長補佐、樂谷介護保険課係長、 畠介護保険課主査
議 事	(1) 令和 5 年度介護保険事業特別会計決算について 【資料 1】【資料 2】【資料 3 (参考)】
報 告	(1) 地域密着型サービス等整備事業者の公募状況について 【当日配布資料 1】 (2) 中主地域包括支援センター運営業務委託事業者のプロポーザル審査について <その他> ・介護人材の確保についての取り組みについて 【当日配布資料 2】
資 料	別添のとおり

議事の経過	
発言者	発言内容
	<p>1. 開会 出席 9 名。定員 12 名の半数以上の出席であり本会議が成立していることを報告。</p> <p>新委員の紹介 令和 6 年 7 月から野洲市商工会の推薦で村井委員が岩本委員に変更となった。任期は村井委員の残任期間である令和 7 年 9 月 30 日まで。</p> <p>2. 挨拶 井狩健康福祉部政策監より開会挨拶。</p> <p>3. 会議録署名委員の指名 会長より、議事録署名人に東森委員と東郷委員が指名された。</p>
事務局	<p>4. 議事 (1) 令和 5 年度介護保険事業特別会計決算について 【資料 1】【資料 2】【資料 3 (参考)】 資料 1・2 について説明。委員からの意見は以下のとおり。</p>
立入会長	資料 2 の P31 の 2 の表の「介護予防通所介護」「短期入所サービス」「介護予防短期生活介護」の項目の合計が合わない。集計について、教示願う。
事務局	表計算の誤りである。大変申し訳ない。
立入会長	確認をお願いする。
畠野委員	資料 1 の P31 の総括のところに、「令和 4 年度と比較し、令和 5 年度末の要支援認定者は 49 人増加しました。」とあるが、その方たちが、居宅サービスを受給せずに、福祉用具や住宅改修に移行したと受け取った。介護予防の観点から言うと、要支援認定者に通所リハビリテーションに通っていただきたいが、ネックになるのは、通う手段の問題である。「行きたいけど、行けない。」「送り迎えもないから、行けない。」という声をどこの地域でもよく聞く。そのあたりとの兼ね合いはどうか。
事務局	通所系のリハビリテーション等については、送迎があり、また、地域支援事業にも、タクシーの通所支援等もある。送迎がないことが理由であるとは考えていな
東森委員	資料 1 の P27 「高齢者の社会参加の促進」で、市老人クラブ加入率の低下について記載されているが、そのことについては痛感している。早期に対策が必要との

	ことであったが、具体的な政策があるのか。それとも、すでに何らかの対策を講じているのか。老人会へのアプローチもお願いしたい。
事務局	令和3年に、老人クラブあり方検討会で老人クラブと高齢福祉課も事務局として、協議した。老人クラブから、「学区の運動会等に動員があつて大変である。」という話があり、「学区の運動会はもうやめていこう。」と見直しをされた。グラウンドゴルフやゲートボール大会についても、ほほえみクラブやゲートボール協会に委託という形でスタッフを担っていただき、参加したい人が行けるように見直しをされている。役員の負担が大きいということで、令和6年度については、大幅に役員の数を見直しをされた。高齢福祉課としては、老人クラブ連合会の自主的な活動をバックアップするというところでは、補助金・助言という形にはなるが、取り組みの見直し等は、一緒に考えさせていただいている。
東森委員	各自治会には、大なり小なり老人の集まり（グループ）があるが、自治会の中だけで周知していることが多く、グループ間交流を自治連合会等へ呼びかけたり、助言等をいただけると有難い。
事務局	老人クラブ連合会に入りたいと思っていただけるために、活動魅力アップが必要である。加えて、負担軽減も必要である。さらに、老人クラブ連合会自体を知らない人もいるかもしれない、市の広報に老人クラブ連合会の活動紹介とその老人クラブ連合会への加入案内（1ページ弱）を掲載している。地道な活動にはなるが、まず周知と、それから魅力アップに向け、老人クラブ連合会事務局と一緒に活動を考えていければと考えている。
政本委員	資料1のP27「高齢者の社会参加の促進」で、「参加者として」の数値が示しているように、参加したいという方は多い。令和4年度は64.8%となっているが、実際は80%程度いるのではないかと考えている。問題は、会を世話する者がいないということである。それがネックになっている。今はサロンでも世話をする方がいるので、皆喜んで参加しているが、自分が世話する側になると辞めてしまう。老人クラブは会費を徴収して、運営しているので、「そこまでして、継続加入したくない。」という意見が多く耳に入る。市を巻き込んで、世話役をいかに育てていくかが課題である。老人クラブは長い歴史があるので、余計に「市として動かさないといけない。」という使命感がずっとある。P28の「ふれあいサロン開催回数」が記載されているが、ここに延べ人数で良いので参加人数を記載したほうがよいのではないか。そうすれば、実態がもっとよくわかる。むしろ、サロンの方が、老人クラブの参加者よりもずっと多い。そういう実態もわかってくるのではないかと考える。また、P27～P29の「施策に対する指標一覧」でR5年度「-」となっており、評価していない状態で、自己評価が「A」となっているのは、R4年度の評価をそのまま、引用しているのか。どのように解釈すればいいのか説明願う。
事務局	3年に1回行うニーズ調査や、実態調査が評価対象に入っている。これは第8期計画の指標に入っているため、R5年度までは、載せる必要がある。第9期計画（R6～8年度）策定のための実態調査実施がR4年度であったので、R4年度の評価のみを載せている。P28の「安心・安全の地域づくり」でR3～5年度「-」となっているものは、R4年度の実態調査時に、項目として入れていなかつたので、「-」となっている。P29の「高齢者の人権尊重」の「虐待事

	例勉強会参加者数（関係者）」については、勉強会を実施していないので、「一」になっている。
岩本委員	<p>①資料1のP28「地域包括支援センターの機能強化」で、各相談件数が挙がっているが、これは相談を受けているから「A」評価になっているのか。それとも、相談をきちんとかこなして終結しているということも含めての評価をしているのか。</p> <p>②資料1のP28「地域包括支援センターの機能強化」で「その他支援機関等からの相談件数」がR5年度は約1,000件増加している理由は。</p> <p>③②はP9の認定調査システムを導入したことと関連はあるのか。</p>
事務局	<p>①については、当初の数値と目標値を挙げているので、その目標に達しているかどうかで評価をしている。内容についても、解決に向けては尽力しているが、数値に対しての評価である。</p> <p>②については、システムの関係で集計方法に変更があり、数字の取り方が変わったためである。</p> <p>③については、介護保険の申請をされた方の状態を国が設定した74の項目について調査をする中で、システムに入力することで労力の削減、加えて、紙資源の無駄が多いということで、おうみクラウド自治体協議会に参加する県下8市が、このシステムを導入した。訪問調査時にシステムに入力をすれば、帰庁後に改めて入力していた作業を削減することができるというものであり、ケアマネジャーの相談業務に利用できるというものではない。</p>
岩本委員	①について、集計方法を変えたということか。それに対する影響は。
事務局	集計の項目を変えたので、件数が急増したと認識している。
岩本委員	通常では考えられない件数の増加であるが、具体的には。
事務局	例えば、一人の方の相談において、介護保険の申請のことの他に、認知症のこと、精神疾患のこと、家族のこと、家庭環境のこと、経済状況のことについて複数のことについて相談される方がいる。このように1件／1人の方もいれば、4件／1人の方も含めて集計をしている関係上、急増したと分析している。
岩本委員	より細分化されたということか。
事務局	そのとおりである。
北山委員	<p>①資料1のP10「居宅介護サービス給付事業費」について、今年度介護報酬改定でプラス改定の事業が多かったが、訪問介護についてはマイナス改定となつた。訪問介護事業者の倒産やヘルパーの就労意欲の低下等の影響についての報道があった。市内の事業所についても、そのような相談事例があれば教示願う。</p> <p>②資料1のP18の「特定入居者介護サービス給付事業費」について、食費・居住費の第1～4段階の内訳を参考に教示願う。</p> <p>③資料1のP29の「介護相談員を受け入れた施設の割合」に関連して、ここに</p>

	は記載はないが、一旦休止をするという通知もいただいた。意見交換を行う機会としては重要だと考えていたので、休止については残念であった。実際に介護相談員が入っている事業者では、サービスの質の向上に繋がったとか、運営面でプラスになった等の事例があれば、教示願う。
事務局	<p>①について、直接相談があったわけではない。しかし、要支援1・2対象の総合事業を行っている（訪問介護事業を併設で行っている）事業者が、困惑していることは聞いている。報酬が下がる面が直接影響しているかは定かではないが、人材確保の観点から、訪問介護の総合事業を取り下げて、要介護者の事業に注力したいとの申し出はあった。</p> <p>②について、第4段階を含めた総数については、あいにく本日資料を持ち合わせてない。第1～3の内訳について、報告する。負担限度額申請・認定状況の集計から、第1段階：7%、第2段階：26%、第3段階：67%（第3段階－1：17%、第3段階－2：50%）となっている。</p> <p>③について、新型コロナ感染症の流行以降、受け入れ可能という回答をいたっていたものの、実際連絡すると、体制が整っていないケースが半数程度であった。実際に虐待等の事象が発生しているので、行くべきときに、行けていなかつたり、行つてはいるが、報告書の改善点について、分かりにくいうところがあり、わかりやすい形に変更していきたいという趣旨での休止である。恒常に休止するという趣旨ではない。委員ご指摘のとおり、事業所が閉鎖的にならないという点では、評価いただいているので、再開に向けても検討していきたいと考えている。</p>
北山委員	②は特養・ショートステイの合計であるか。
事務局	そのとおりである。
	本議案について全員賛成で承認となった。
事務局	<p>5. 報告</p> <p>(1) 地域密着型サービス等整備事業者の公募状況について 前回からの変更点を中心に、募集要項について説明。</p> <p>(2) 中主地域包括支援センター運営業務委託事業者のプロポーザル審査について 本日のプロポーザル審査会の結果、1事業者が受託事業候補者に決定したことを報告。</p>
事務局	<p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護人材の確保についての取り組みについて <p>人材確保については、計画を策定する中でも、皆さんにも課題と認識していた。当協議会委員の芳野委員、北山委員、田中委員が中心となって、8月に入所施設の有志に集まつていただき、市内の人材確保の状況について、第1回の情報交換する会議を設けた。市内の介護業界を盛り上げていこうという空気になり、今後、第2・3回と会議を実施し、他事業者との繋がりを強化</p>

	<p>し、R 7年度に施策の立案、R 8年度予算設定できればと考えている。併せて、お手元のチラシのとおり、県からの補助金を活用し、例年、入門的研修を行っている。例年上限20名の参加としていたが、今年度10名に減らした。理由は、削減した予算で、介護施設の職員向けの連続講座（8月から開始）を実施することにしたためである。</p> <p>①虐待防止・虐待についての知識を身につける ②コミュニケーション能力を上げる ③正しいケアについての知識を身につける</p> <p>以上①～③のテーマを5回に分けて研修を行う予定である。前回の虐待防止の研修は、20名の参加があった。今回の研修では、難しいものではなく、非常に柔らかく、「横の繋がりができて楽しかった。」「また、参加したい。」という感想もいただき、大変好評であった。微力ではあるが、介護の人材を確保・定着するため、委員の力を借りながら進めている。もう一つ、市民の方を対象に基礎講座という簡単な優しい講座を9月10・11日に野洲慈恵会の職員様に講師をしていただき、研修を行った。20名募集で19名の方に参加いただき、こちらも大変好評のうちに終了したことをご報告する。</p>
畠野委員	このチラシは野洲市で働く方を拡大するという意味で行っているのか。「野洲市在住の方」となっているので、補助金が関係するのかもしれないが、野洲市で働きたいという近隣の近江八幡市や守山市の方も参加できるのか。
事務局	野洲市が主催者であるので、他市町の方ばかり受け入れるということは難しいが、先般の基礎講座についても、図書館でチラシを見た守山市の方から問い合わせがあった。定員に達していない状況で、他市町の方をお断りするのはもったいないと感じる部分もある。空きがあれば、介護に興味を持っている方にも参加いただくべきであると考える。
畠野委員	チラシにそういった注意書きがあれば、問い合わせてみようと思うかもしれないが、「野洲市在住の方」という文言見た時点で、他市町の方は諦めてしまうのではないか。
事務局	今後の参考にさせていただく。
	7. 閉会

以上、本議事録が正確であることを証するため、議事録署名人は次のとおり記名する。

令和6年10月9日

議長

立入章基

議事録署名人

東森志男

議事録署名人

東郷恵子